



2025 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ

ROUND 6

SUPERBIKE RACE in OKAYAMA



■ 岡山県
■ 岡山国際サーキット
■ 1周=3.747km

■ クラス / JSB1000
■ マシン / BMW M1000RR
■ タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 **11** 関口 太郎

予選

17 番手

(タイム: 1分51秒758)

10月4日(土)
天候: 雨
コース: ウエット

決勝

11 位

10月5日(日)
天候: 曇り
コース: ドライ



三明電気工事



トラブルを乗り越え冷静にポイントを積み上げる



2025年シーズンの全日本ロードレース選手権も今回の岡山ラウンドを含め残り2戦。いよいよ大詰めとなってきた。SANMEI Team TARO PLUSONEは、今年も岡山での事前公開テストを経費削減のためにキャンセル。レースウィークからの走行開始となった。走行初日となった金曜日は朝から雨が降り始め、1本目は雨量は少なかったもののウェットコンディション。走り始めると、マシンセットが全然合わず試行錯誤を繰り返す。2本目に向けて、かなりセットを振ると、雨量の多い中、いいフィーリングになってきていた。セッション終盤にさらにセットを変えて出ていくと転倒があり、赤旗が提示される。フィーリングはよくなってきただけに、もっとタイムを出せる感覚はあったため、土曜日の公式予選も雨予報のため、いい流れになってきたと感じていたのだが…。



土曜日の公式予選は、金曜日のセットの延長上で走り出すが、電気系のトラブルが出てしまう。まずは、予選を通るタイムを出しておこうと、だましだまし走り、計測5周目に1分51秒758を記録。その後は、症状がひどくなってしまいタイムを更新するどころの状況ではなくなってしまいます。ピットに戻り原因を探るが、予選中に解決できずにセッションは終了。序盤に出しておいたタイムで17番手。予選通過基準タイムをクリアしていないライダーもいるほど、難しいコンディションでもあり、関口の冷静な判断は間違っていなかった。



日曜日の天候は回復する予報だったが、朝まで雨が降っており、ウォームアップ走行はハーフウェット。予選で出たトラブルを解決するため、考え得る部分を直して走って見たが、同じ症状が出てしまう。Tカーに乗り換え、こちらは大丈夫なことを確認し、決勝はTカーで挑むことを決断。ぶっつけのドライコンディションだったため、マシンセットもチームと話し合って決めてグリッドに向かった。



後方グリッドということもあり、慎重にスタート。モーターサイクルシケインでは、目の前で鈴鹿8耐で組んだ中村竜也選手が接触転倒。これを冷静に避け、1台、また1台とポジションを上げていき、4周目には12番手に浮上。マシンのフィーリングを確認しながら、徐々にペースを上げると、前を走る選手に約4秒まで迫っていた。しかし、これ以上ペースを上げるのはリスクがあると判断。残り2周を切った23周目にモーターサイクルシケインで前で転倒があり赤旗が提示。一つポジションを上げ11位というリザルトを残した。

今回も事前テストをキャンセル。レースウィークは金、土とウェットで、決勝でぶっつけドライというコンディションでしたが、予選でのトラブルを乗り越え、しっかりポイントを獲れたことはよかったです。実は、オートポリスのときから腰痛と足のしびれに悩まされており、今回の岡山は特に厳しい状態でした。最終戦鈴鹿までに、しっかり治して、いい走りができるように準備していきます。鈴鹿には、アルファレーシングのジュリアンを呼んでいるので、2025年シーズンをいい形で締めくくれるように頑張ります。引き続き応援よろしくお願いいたします。

関口 太郎

